

2017年9月 東京23区 - 0.2%の3,287円/m²、横浜市やさいたま市では3カ月連続下落

三大都市圏・主要都市別/分譲マンション賃料月別推移

首都圏9月 前月比+0.2%の2,632円/m² 東京23区は年初来の最低値も安定推移は変わらず

大阪市では4カ月ぶりに上昇、正味トレンドも堅調に推移 名古屋市は神戸市を上回る状況が続く

2017年9月の首都圏・分譲マンション賃料は、賃料水準が高い東京都での事例シェアが緩やかな拡大傾向にあることから、前月比+0.2%の2,632円/m²と僅かに強含んだ。都県別で見ると、東京都では-0.1%の3,127円/m²と弱含みが続いており、神奈川県（-1.0%、2,132円/m²）や埼玉県（-0.3%、1,585円/m²）でもここ3カ月間は概ね下落傾向を示している。一方、千葉県では築年数が26.1年→25.5年とやや若返った影響から、+0.9%の1,531円/m²と同じ築年数であった7月の水準まで戻している。

近畿圏では主要エリアが横ばい～弱含みとなったために、前月比-0.6%の1,765円/m²と3カ月連続で下落した。大阪府では築古事例の増加に伴って平均築年がやや進んだものの、前月から概ね横ばいの2,023円/m²で2,000円台は維持している。兵庫県では6月を境に平均築年数が進む傾向にあり、賃料水準も-0.2%の1,598円/m²と下落し続けている。

中部圏では前月比-0.4%の1,613円/m²、愛知県では-1.0%の1,652円/m²となった。前月には平均築年数が1年以上若返り、今月は再び築古事例が増えたことによる反動で賃料水準を下げているものの、正味のトレンド自体は依然として堅調さを維持している。

※詳細なデータや分析内容についてはこちらの[プレスリリース](#)をご覧ください